

(1913) 大正2年、(1917年) 大正6年は鏡花にとって戯曲の時代であり名作を立て続けに発表した。『夜叉ヶ池』大正2年、『海神別荘』同年、そして大正6年この戯曲が発表された。

今では鏡花の最高傑作として度々上演される『天守物語』は、今日でも様々な演出の可能性に満ちた作品である。

この度の上演は能舞台―それはまさに城の天守閣を彷彿させる劇空間である。その劇空間でこれまでにない音楽劇(吹き物・打ち物・琵琶・三味線と歌・シンセサイザー)として、衣裳は細田ひな子の遺作の唐織と装束により上演する。

演出家 笠井賢一

あらすじ

時は封建時代、播州姫路城の天守閣の五重。ここはかつてこの城の城主に凌辱されそうになり舌を噛み切つて死んだ上臈の化身富姫とその侍女たちが支配する妖魔の世界である。ここには姫路城の武士も足を踏み入れることができない。

おりしも富姫の妹分である、猪苗代の城の亀姫が遊びに来る。亀姫は播磨守の弟の猪苗代城主の生首を土産に持参している。二人は鞠をついてあそび、土産のお返しに迷いこんだ白鷹を富姫は捕らえ亀姫に持たせる。

夜更け、その五重に主君の白鷹を探して鷹匠図書之助が足を踏み入れる。図書之助は播磨守秘蔵の鷹をそらした罪で切腹を命じられる代わりに鷹を探索にこの魔界に足を踏み入れたのだ。「千歳百歳にただ一度、たった一度の恋だのに」。富姫と図書之助の恋の行方は・・・



〈出演〉 富姫 藤堂 叶倫



図書之助 鳴海翔也



亀姫 円地 晶子(無名塾)



薄 金澤 早苗



桔梗 橋本 樹里



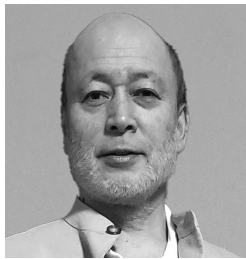
葛 赤坂 真理



朱盤坊 茅根 利安



舌長姥 石橋 敬子



小田原修理 八田部 鉄



桃六 笠井 賢一

〈音楽〉 吹き物 設楽 瞬山
打ち物 橋 政愛
琵琶 岩佐 鶴丈
作曲 佐藤 岳晶
〈スタッフ〉 衣装 細田ひなこ
振付 オノマヒロ
舞台監督 山村 楽千代
構成・演出 島本 和人
笠井 賢一

2025年
9月26日 金 18時30分
9月27日 土 15時 (45分前開場)

〇会場 鏡仙会能楽研修所

東京都港区南青山4-21-29
Tel 03-3401-2285
交通「表参道駅」A4出口より徒歩3分

〇入場料(全自由席)

前売券 4500円(税込)
当日券 5000円(税込)

*全席座椅子付き
(足を伸ばしてゆったりご覧いただけます)

〇お申込み・お問い合わせ

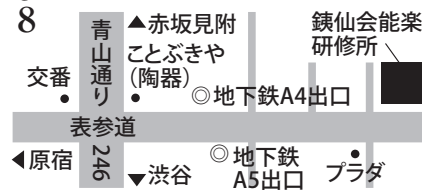
アトリエ花習(鈴木)

Tel 090-9676-3798

✉ mail@atelierkashu.com
ホームページ atelierkashu.com

〇お申込フォームへ↓

〇主催 一般社団法人アトリエ花習



《予告》11月23日(日・祝) 15時 鏡仙会能楽研修所

泉鏡花作『月夜遊女』

逗子の浜で揚がった巨大な鯨を早荷するうち肝を抜き取ると美しい遊女と化して隠棲した老政治家をたぶらかし、日露戦争の渦中に書かれた奇想天外な喜劇。第二次世界大戦・ロシア革命の時期に書かれた『天守物語』同様、反戦劇とも読める作品。『天守物語』に続きアトリエ花習の笠井賢一演出・無名塾の円地晶子・平井真軌による上演。